

母親の子どもに対するアタッチメント：自閉症スペクトラム症 特性の高い子ども、低い子どもを持つ養育者の比較を通して

京都大学大学院教育学研究科 高松 礼奈

Dual Process Model of Mother-Child Attachment: Comparisons of Mothers of a High Autistic Child and the Comparison Group

Graduate School of Education, Kyoto University, TAKAMATSU, Reina

要約

本調査は、母子のアタッチメント形成において感情と認知の二重過程プロセスを仮定し、子どもをかわいいと思う感情と母性意識が母親の子どもに対するアタッチメントに与える影響を検討した。二段階サンプリング法を用い、母子のアタッチメントが形成されづらい自閉傾向の高い子どもの母親（ $n = 64$ ）と対照の子どもの母親（ $n = 72$ ）を対象とした質問紙調査を行った。さらに、6ヶ月後に再び調査を実施し（ $n = 85$ ）、二時点における子どもの共感性、母子のアタッチメントの関係を検討した。その結果、子どもの低共感（他者の情動への注意、向社会的行動）は、母親が子どもをかわいいと感じづらいことを予測していた。さらに、子どもをかわいいと思う感情と母性意識（肯定的・否定的）は、母親の子どもに対するアタッチメントを有意に予測していた。このことから、母子のアタッチメント形成には、子ども側の要因と母親側の要因がそれぞれ影響し、感情と認知の二重過程モデルによって予測されることが示された。

【キー・ワード】 母子のアタッチメント、共感性、かわいい感情、自閉症スペクトラム症特性

Abstract

The present research tested the dual-process model of mother-child attachment to predict maternal attachment with their child. Using the stratified sampling method, mothers of a high autistic child ($n = 64$) and mothers of a low autistic child ($n = 72$) participated in the study. Among those, 85 mothers participated in the follow-up study after 6 months. The results showed that high autistic children were rated lower on two empathy scores (attention to the others' feelings, prosocial behavior) as measured by the EmQue (Empathy Questionnaire) at the two time points. Furthermore, the child's low empathy was associated with the mother's reduced kawaii (cuteness) emotion toward babies and children, which, along with positive and negative self-perception as a mother, predicted lower maternal attachment with her child. These results suggest that both emotional/intuitive and cognitive processes are involved in forming and maintaining a mother's

attachment with her child.

【Key words】 Mother-child attachment, Empathy, Kawaii emotion, Autistic traits

問 題

2015 年、アメリカの国民的教育番組「セサミストリート」に、自閉症スペクトラム症の女の子ジュリアが登場した。日本では 2005 年に発達障害者支援法が施行され、発達障害の早期発見、学校教育や就労、自立した生活と社会参加のための支援が提言された。このように、国内外では 10 年以上前から、自閉症スペクトラム症を含む発達に課題を持つ人びとを支援する動きがある。最近の研究によると、日本人 5 歳児の自閉症スペクトラム症の有病率は、3.22%と推定されており (Saito et al., 2020)、メディアに取り上げられることも増え、自閉症スペクトラム症は身近となった。さて、自閉症スペクトラム症の子どもとその養育者を取り囲む状況も変わっているだろうか。

養育行動と親子のアタッチメント

現在人間の養育行動に関する心理学や進化学の研究では、先天的な欲求や感情が養育欲求に与える影響に焦点が当てられている。ベビースキーマ効果によると、人間は幼稚な身体的特徴を持つ対象 (例: 赤ちゃん) を知覚すると、養護が必要と認識してやさしい感情や養育欲求を抱き、養育に関連した行動を取る (Glocker et al., 2009; Nittono et al., 2012)。一方で、養育者が育児の中で親である自分をどう捉えるか (認知) は、ベビースキーマの研究では見過ごされている。親である自己意識は、親からの働きかけに子どもがどう応答するか、養育者がどのくらいストレスを感じているか、周囲からどの程度サポートがあるかなど、多角な要因によって影響される (Davis & Carter, 2018)。

ベビースキーマのモデルでは、誰もが幼稚な特徴を持つ赤ちゃんに対して養育欲求を抱き、養育に関連した行動を取ると想定されている。しかし、このシステムが機能しなくなる原因を説明していない。どの文化や社会の統計データを概観しても、被虐待児はベビースキーマ効果が最も高いと想定される乳幼児である (WHO, 2020)。また、赤ちゃんや子どもに対するかわいい感情の低下は、否定的な母性意識を媒介して、虐待に発展する可能性のある厳しいしつけを予測する (Takamatsu, 2020)。このことから、かわいい感情を核としたベビースキーマのモデルを発展させた、より包括的なモデルが求められる。

親子の安定したアタッチメントには、養育者の応答性と一貫的に温かい養育が規定因の 1 つである (Bowlby, 1979)。そのため、養護の担い手である養育者が子どもに対するアタッチメントをいかに形成し、維持するのか調べることは心身ともに健全な子どもの発達に寄与する。養育者の心理的ウェルビーイングやストレスは、親子関係の質と関連する (Hickey et al., 2020)。また、親子関係は人間を含む哺乳類の多くが初めて形成する社会関係で、その関係の質はその後の社会生活の基盤となる (Bowlby, 1979)。特に、発達に課題を持つ子どもにとって、養育者との関係は社会生活への適応に大きく影響する。自閉症スペクトラム症のソーシャルスキルをターゲットとした介入プログラムでは、養育者のコミットメントが必要不可欠である (Karst & van Hecke, 2012)。

本研究の目的と仮説

本研究は、自閉症スペクトラム症特性の高い子どもの母親と同年齢の子どもを育児中の母親を対象に、二時点で調査を行い、母親の子どもに対するアタッチメントの形成について検討することを目的とした。特に、養育者が子どもに抱くアタッチメントにおいて感情と認知の役割を明らかにするため、感情と認知の二重過程モデル（図 1）を検証した。

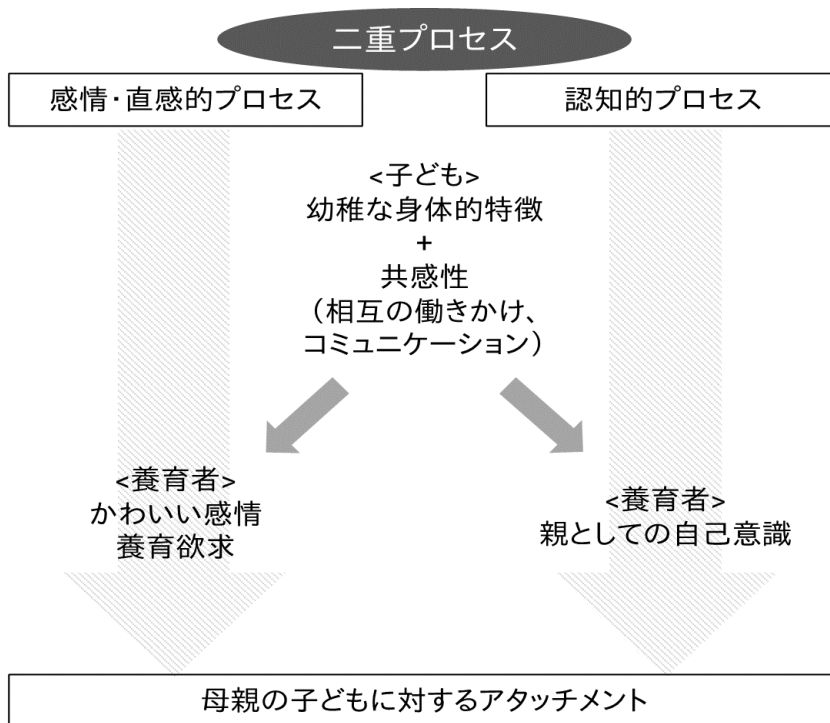


図 1 母親の子どもに対するアタッチメントの二重過程モデル

また、日本語版 EmQue (Empathy Questionnaire) を用い、自閉傾向の高い子どもと低い子どもの共感性の発達を探索的に比較する。仮説は以下のとおりである。

仮説 1: 自閉症スペクトラム症特性の高い子どもは、対照群の子どもと比較し、母親によって評定される共感性の EmQue 得点が低い EmQue (日本語版 Empathy Questionnaire: Takamatsu et al., 2021) は幼児期の共感性の 3 要素 (情動伝染, 他者の情動への注意, 向社会的行動) を測定する養育者が評定する尺度である。共感性の発達モデル (Hoffman, 1987) と一致し、発達と共に他者の情動への注意と向社会的行動の得点は高くなり、情動伝染は変わらない (Rieffe et al., 2010)。自閉特性の高い子どもについては、幼児期に発達する他者の情動への注意と向社会的行動が、対照群の子どもよりも低く、情動伝染については有意差のみられないことが予測される。

仮説 2: 子どもの低共感性は、母親の子どもに対するかわいい感情の低さを予測する 母子関係の形成において、母親と子どもは互いに影響を与え、相互的なコミュニケーションを通して絆が深まってい

く (Nagy, 2008)。しかし、自閉傾向の高い子どもは母親からの働きかけに対して反応が低く、母親は子どもとの関わりから肯定的な経験を得ることが難しく、子どもをかわいいと感じにくいことが予想される。

仮説 3: 子どもに対するかわいい感情、母性意識とソーシャルサポートは、母親の子どもに対するアタッチメントを予測する 母親の子どもに対するアタッチメントを予測する感情と認知の二重過程プロセスを検証するために、感情プロセスはかわいい感情、認知プロセスは母親としての意識を調べた。また、育児には周囲からのサポートが大きく影響することから (湯沢ら, 2007)、探索的にソーシャルサポートも予測子に含めた。

仮説 4: T1 における母性意識は、T2 における母親の子どもに対するアタッチメントと関連する 具体的に、T1 の肯定的な母性意識は、T2 の母親の子どもに対するアタッチメントと有意な関連がみられると予測した。また、T1 の否定的な肯定的な母性意識は、T2 の母親の子どもに対するアタッチメントと有意な関連がみられると予測した。

方 法

調査会社にリクルートを依頼し、2 段階サンプリング法を用いて予備調査と本調査 2 回を行った。第 1 回目調査 (以下 T1) は、2020 年 12 月中旬に行った。第 2 回目調査 (以下 T2) は、6 ヶ月後の 2021 年 6 月中旬に行った。本調査に参加した者を再リクルートし、共感性 (EmQue)、母性意識、子どもに対するアタッチメントの時間的変化を検討した。この研究は、京都大学心の先端研究ユニット研究倫理委員会より承認を受けて実施した (承認番号 1-P-19)。

予備調査

未就学児を育児中の成人女性 1,317 名 (平均年齢 = 35.39 歳, $SD = 5.03$) を対象に予備調査を実施した。未就学児が 2 名以上いる場合は、長子について回答するように教示した。アンケートでは、幼児の自閉傾向を測定する 14 項目 (大六, 2006) に回答を求めた。回答は「はい」「少し」「いいえ」で求めた。

母親の子どもに対するアタッチメント：自閉症スペクトラム症特性の高い子ども、低い子どもを持つと養育者の比較を通して

表 1 予備調査の項目別度数 (%)

項目	いいえ	少し	はい
1. 仲の良い友だちがいますか	65 (4.9%)	310 (23.5%)	942 (71.5%)
2. お父さんやお母さんのまねをしたことがありますか	28 (2.1%)	123 (9.3%)	1166 (88.5%)
3. いっしょに遊ぶときやお話をするとき、あなたの顔を見ますか	20 (1.5%)	119 (9.0%)	1178 (89.5%)
4. お遊戯に進んで参加して、友だちのやり方をまねしますか	63 (4.8%)	262 (19.9%)	992 (75.3%)
5. テレビのヒーローやヒロイン、悪役などになりきって遊んだり、また、ままごとなどで役になりきって遊んだりしますか	65 (4.9%)	184 (14.0%)	1068 (81.1%)
6. みんなでルールのある遊び(かくれんぼ、おにごっこなど)をするとき、ルールにしたがうことができますか	63 (4.9%)	308 (23.4%)	946 (71.8%)
	はい	少し	いいえ
7. 自分のやり方や順番にこだわり、変更をひどく嫌がったことがありますか(例:電車やバスで必ず同じ席に座る、道順にこだわるなど)	0	848 (64.4%)	469 (35.6%)
8. 他の子どもは興味を持たないものに熱中したことがありますか(例:住居表示、時刻表など)	0	612 (46.5%)	705 (53.5%)
9. 人を困らせたり怒らせたりするようなことを平気で言うことがよくありますか	0	745 (56.6%)	572 (43.4%)
10. 朝出かけるときは「行ってきます」と言うべきなのに「行ってらっしゃい」と言ったり、帰宅したら「ただいま」と言うべきなのに「おかえり」と言ったりしたことがありますか	0	802 (60.9%)	515 (39.1%)
11. 同じことを同じ言い方でしつこく繰り返す、繰り返したこと、または、相手に繰り返し言わせたことがありますか	0	749 (56.9%)	568 (43.1%)
12. 他の子と比べて、表情の変化(レバートリー)が乏しいですか	0	254 (19.3%)	1063 (80.7%)
13. 自分にしかわからない言葉をよく作りますか	0	534 (40.6%)	783 (59.5%)
14. 動作や身振りが不器用で、ぎこちないことがよくありますか	0	313 (23.8%)	1004 (76.2%)

注)項目1～6は逆転項目

本調査 (T1)

予備調査の自閉症スクリーニングテスト (ASQ) が 10 点よりも高い点数の回答者 (高群) と 0 点～2 点の回答者 (低群) にアンケート調査参加募集のメッセージを送信した。重複データを除外し、136 名 (平均年齢 35.74 歳 : $SD = 5.25$) をデータ分析対象とした。表 2 に参加者の子どもの属性を示す。

表 2 参加者の子どもの属性 (本調査 T1)

	高自閉		低自閉	
	男児	女児	男児	女児
<i>n</i>	36	28	37	35
<i>M</i> _{age}	4.34		4.47	

注) 4、5歳のお子さんが2名の場合、長子について回答を求めた

本調査 (T2)

参加に同意したのは、98 名であった (平均年齢 = 36.67 歳, $SD = 4.72$)。本調査 (T2) に不参加であった母親は 38 名 (27.9%) であった。T2 参加者と不参加者は、子どもの性別と ASQ 得点 (自閉傾向高群・低群) において有意差はなかった $\chi^2(N = 136) = 5.87, p = .118$ 。

調査項目

調査に使用された質問項目を下記に示す。なお、本調査 (T2) で使用された尺度は* (*) がついている。

子どもの共感性* 日本語版幼児の共感性質問紙 (EmQue) EmQue (Rieffe et al., 2010; Takamatsu et al., 2021) は、1 歳～5 歳までの共感性の 3 側面 (情動伝染, 他者の情動に対する注意, 向社会的行動) を測定する 20 項目の養育者が評定する尺度である。教示では過去 2 ヶ月の子どもの行動について振り返り、各文の行動がどのくらいの頻度でみられたか 5 段階評定で回答を求めた (1: あなたが分かる範囲において全くなかった～5: いつもあった)。

母親の共感性 多次的共感性尺度 (登張, 2003) の下位尺度 2 つ (共感的関心, 視点取得) を用い、回答者 (母親) の共感性を測定した。

かわいい感情 かわいい反応尺度 (Takamatsu, 2020) により、赤ちゃんに対するかわいい感情反応を測定した。

母性意識* 母性意識尺度 (大日向, 1988) を用い、母親であることの肯定的な意識 (例: 「母親になったことで、人間的に成長できた」) と否定的な意識 (例: 「子どもを育てることが負担に感じられる」) について回答を求めた。

ソーシャルサポート ソーシャルサポート尺度 (岩佐ら, 2007) の文言を調整し、子育て中の母親が知覚する周囲からのソーシャルサポートを 3 項目で測定した。

母親の子どもに対するアタッチメント* 母親の愛着尺度日本語版 (中島, 2001) を用い、母親の子どもに対するアタッチメント (例: 「子どもと一緒に過ごすことを楽しみにしている」) を測定した。

結果

T1 における自閉傾向高群と低群の比較

表 3 に、本調査 (T1) における自閉傾向高群と低群を比較した結果、平均値と *SD* を示す。自閉傾向高群の子どもは、低群の子どもと比較すると、EmQue の下位尺度の中で、他者の情動に対する注意と向社会的行動が有意に低く母親によって評定されていた (他者の情動に対する注意: $t(134) = 2.52, p = .013, d = .43, 95\% \text{ CI}[-2.870, -.345]$; 向社会的行動: $t(134) = 2.18, p = .031, d = .36, 95\% \text{ CI}[-2.441, -.118]$)。一方、情動伝染は自閉傾向の高い子どもの方が、高く評定されていた $t(132) = 37.12, p < .001, d = .91, 95\% \text{ CI}[1.373, 3.013]$ 。

表 3 自閉傾向高群と低群の比較（本調査 T1）

	高自閉 (n = 64)	低自閉 (n = 72)	t(df)	p	d	95% CI
EmQue (子どもの共感性)						
情動伝染	8.79	6.60	37.12 (132)	<.001	0.91	1.373, 3.013
他者の情動に対する注意	13.66	15.26	2.52 (134)	.013	0.43	-2.870, -.345
向社会的行動	9.48	10.76	2.18 (134)	.031	0.37	-2.441, -.118
IRI(母親の共感性)						
共感配慮	42.84	48.90	5.04 (134)	<.001	0.86	-8.437, -3.681
個人的苦悩	18.63	17.11	2.30 (134)	.023	0.39	.658, .212
かわいい感情	23.06	30.06	9.22 (134)	<.001	1.58	-8.492, -5.494
母性意識(肯定的感情)	15.17	18.13	4.24 (134)	<.001	0.73	-4.330, -1.577
母性意識(否定的感情)	15.83	12.83	4.57 (134)	<.001	0.78	1.698, 4.292
ソーシャルサポート	11.94	16.72	7.64 (134)	<.001	1.31	-6.023, -3.546
子どもに対する愛着	16.69	22.17	6.46 (134)	<.001	1.10	-7.158, -3.801

注) d = Cohen's d (効果量)

T1 における子どもに対するかわいい感情を予測する変数の検討

目的変数を母親の子どもに対するかわいい感情とした重回帰分析を行い、子どもの共感性を予測子としたモデルを検討した。その結果、情動伝染は低いかわいい感情を予測していた $\beta = -.43$, $SE = .162$, $p < .001$, 95% CI [-.574, -.276]。他者の情動に対する注意は、高いかわいい感情を予測していた $\beta = .34$, $SE = .124$, $p < .001$, 95% CI [.173, .498]。向社会的行動の効果は、有意傾向であった $\beta = .16$, $SE = .135$, $p = .059$, 95% CI [-.006, .322]。母親の子どもに対するかわいい感情を予測するモデルにおける子どもの共感性の寄与率は、 $R^2_{adjusted} = .28$ であった。よって仮説 2 は支持された。

T1 における子どもに対するアタッチメントを予測するモデルの検討

まず、Step1 では自閉傾向高群・低群を統制変数として投入した。次に、かわいい感情、肯定的な母性意識、否定的な母性意識とソーシャルサポートを投入した。その結果、最終モデルでは、かわいい感情 ($\beta = .25$, $SE = .092$, $p = .007$, 95% CI [.069, .432])、肯定的な母性意識 ($\beta = .27$, $SE = .092$, $p = .004$, 95% CI [.067, .346])、否定的な母性意識 ($\beta = -.21$, $SE = .094$, $p = .003$, 95% CI [-.3443, -.074])とソーシャルサポート ($\beta = .24$, $SE = .113$, $p = .006$, 95% CI [.070, .416])が有意な予測子であった $R^2_{adjusted} = .53$, $F(5, 130) = 30.85$, $p < .001$ 。よって仮説 3 は支持された。

T2 における自閉傾向高群と低群の比較

表 4 に、本調査 (T2) における自閉傾向高群と低群を比較した結果、平均値と SD を示す。T1 と同様に、自閉傾向高群の子どもは、低群の子どもと比較すると、EmQue の下位尺度の中で、他者の情動に対する注意が有意に低く母親によって評定されていた ($t(96) = 2.14$, $p = .017$, $d = .44$, 95% CI [-2.997, -.114])。向社会的行動は、低群の子どもの方が高群の子供よりも高く評価されており、有意傾向であった ($t(96) = 1.94$, $p = .055$, $d = .40$, 95% CI [-.025, 2.359])。また、情動伝染は自閉傾向の高い子どもの方が、高く評定されていた $t(96) = 3.31$, $p < .001$, $d = .68$, 95% CI [.757, 3.027]。よって仮説 1 は支持された。

表 4 自閉傾向高群と低群の比較（本調査 T2）

	高自閉 (=41)	低自閉 (=57)	t (df)	p	d	95% CI
EmQue (子どもの共感性)						
情動伝染	7.04 (2.80)	8.93 (2.78)	3.31 (96)	<.001	0.68	-3.027, -.757
他者の情動に対する注意	5.70 (3.46)	14.14 (3.66)	2.14 (96)	.017	0.44	.114, 2.997
向社会的行動	9.78 (3.28)	10.94 (2.66)	1.94 (96)	.055	0.40	-.025, 2.359
ストレス(母親)	8.41 (2.70)	6.67 (2.30)	3.48 (96)	<.001	0.71	-2.754, -.741
母性意識(肯定的感情)	14.78 (3.68)	17.74 (4.32)	3.55 (96)	<.001	0.73	1.305, 4.608
母性意識(否定的感情)	16.15 (3.13)	13.07 (3.85)	4.21 (96)	<.001	0.86	-4.528, -1.624
子どもに対する愛着	17.78 (5.18)	21.46 (5.11)	3.49 (96)	<.001	0.72	1.586, 5.765

注) d = Cohen's d (効果量)

T1 と T2 における子どもの共感性の関連

T1 と T2 における子どもの共感性の関連を検討するために、自閉傾向高群と低群に分けて EmQue の下位尺度 3 つの偏相関を調べた。制御変数に子どもの年齢を投入した。結果を表 5 に示す。

表 5 T1 と T2 における子どもの共感性の偏相関係数

Group	1	2	3	4	5	6
高自閉 (n = 40)						
1. T1 情動伝染	—	.30†	.27	.17	.09	.06
2. T1 他者の情動に対する注意	—	—	.18	-.12	.30†	-.07
3. T1 向社会的行動	—	—	—	.13	.20	.49**
4. T2 情動伝染	—	—	—	—	.42**	.52***
5. T2 他者の情動に対する注意	—	—	—	—	—	.42**
6. T2 向社会的行動	—	—	—	—	—	—
低自閉 (n = 57)						
1. T1 情動伝染	—	.05	.20	.31*	.05	.41**
2. T1 他者の情動に対する注意	—	—	.52***	.01	.55***	.34**
3. T1 向社会的行動	—	—	—	.06	.31*	.63***
4. T2 情動伝染	—	—	—	—	.33*	.26†
5. T2 他者の情動に対する注意	—	—	—	—	—	.27*
6. T2 向社会的行動	—	—	—	—	—	—

注) T1 = 本調査 (T1), T2 = 本調査 (T2), 子どもの年齢を制御変数に投入した
†p < .01, *p < .05, **p < .01, ***p < .001.

自閉傾向高群では、T1 における向社会的行動は、T2 における向社会的行動と有意な関連がみられた、 $r = .49, p < .001$ 。T1 と T2 における他者の情動に対する注意の関連は、有意傾向であった、 $r = .30, p = .064$ 。T1 と T2 における情動伝染は、有意な関連がみられなかった、 $r = .17, p = .307$ 。

自閉傾向低群では、T1 における共感性は、T2 における共感性とすべて有意な相関を示した（情動

母親の子どもに対するアタッチメント：自閉症スペクトラム症特性の高い子ども，低い子どもを持つと養育者の比較を通して

伝染： $r = .31, p = .022$ ；他者の情動に対する注意： $r = .55, p < .001$ ；向社会的行動： $r = .63, p < .001$ 。

T1における母性意識，かわいい感情，ソーシャルサポートとT2における子どもに対するアタッチメントの関連について

サンプル数が少なかったため，二時点における母性意識，子どもに対するかわいい感情，母親の子どもに対するアタッチメントの偏相関を群ごとに検討した。母親と子どもの年齢を制御変数とした。その結果，子どもの自閉傾向の高低に関係なく，T1の肯定的な母性意識，かわいい感情とソーシャルサポートは，T2の子どもに対するアタッチメントとの間に有意な正の相関を示した。また，両群においてT1の否定的な母性意識はT2の子どもに対するアタッチメントとの間に有意な負の相関を示した（自閉症高群： $r = -.46, p = .004$ ；自閉症低群： $r = -.57, p < .001$ ）。自閉症低群では，T1の肯定的な母性意識はT2の子どもに対するアタッチメントと有意な正の相関があった， $r = .61, p < .001$ 。しかし，自閉症高群では有意傾向であった， $r = .31, p = .059$ 。この相関係数の違いに有意差があるか調べたところ， $Z = 1.83, p = .034$ で有意であった。結果を表6に示す。

表6 T1の感情および認知的要因とT2の子どもに対するアタッチメントの偏相関係数

	高自閉 (=41)	低自閉 (=57)
T1 肯定的な母性意識	.31†	.61***
T1 否定的な母性意識	-.46**	-.57***
T1 子どもに対するかわいい感情	.36*	.46***
T1 ソーシャルサポート	.36*	.47***

注) 子どもと母親の年齢を制御変数に投入した
† $p < .01$, * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

考 察

この研究では，自閉症スペクトラム症特性傾向の高い子どもと低い子どもの比較を通し，母親の子どもに対するアタッチメントを予測する感情と認知の二重過程モデルを検討した。そこで，二時点において自閉傾向の高い子ども，自閉傾向の低い子どもを持つ母親を対象にオンライン調査を実施した。その結果，共感性は我々と他者を情動的に結びつけるという仮定のとおり，母親の子どもに対するアタッチメントの形成には子どもの共感性が影響していた。さらに，母親の子どもに対するかわいい感情と母親としての意識は，それぞれ独自に子どもに対するアタッチメントと関連していた。したがって，養育者（母親）が子どもに抱くアタッチメントを予測する感情と認知の二重過程モデルは支持された。

母親の子どもに対するアタッチメントは，子どもをかわいいと感じる感情（ベビースキーマ効果）だけでなく，母親としてのポジティブな自己イメージも重要であることが示された。ただし，二時点における母性意識（T1）と母親の子どもに対するアタッチメント（T2）の関連を調べたところ，自閉

症低群では有意な関連があった一方、自閉症高群では有意傾向であった。この高群と低群の相関係数の差は有意であった。したがって、自閉症高群の母親は、肯定的な母性意識が子どもに対するアタッチメントにつながりにくいと考えられる。

二時点において、自閉傾向の高い子どもは、自閉傾向の低い子どもと比較し、幼児期に著しく発達する共感性の 2 側面（他者の情動に対する注意、向社会的行動）が低かった。一方、情動伝染は、自閉症傾向の高い子どもの方が高く評価されていた。自閉症スペクトラム症傾向の高い者は、共感場面において高い覚醒と関連するが、他者の視点から物事を外観することが苦手とする知見と一致する。共感不均衡仮説によると、自閉症傾向の高い者は、情動的な共感性（たとえば、他者の苦しみをみて、自分も胸が痛くなる個人的苦悩）が高く、認知的な共感性（たとえば、感情的に自他を切り離しつつ、相手の立場から物事をみること）が低い（Smith, 2009）。この研究の結果より、早い段階から、自閉症傾向の高い子どもは、この共感性の不均衡を持つことがわかった。また、他者の感情に無関心で注意を向けることがないために、他者と感情のズレが生じ、助けを必要としている他者に対して向社会的に行動することが難しいことが示唆された。

発達に課題を持つ子どもの養育者は多くのストレスに晒され、メンタルヘルス上の問題を抱えることが多い。そのため、発達に関する子どもを持つ養育者の支援が重要であるとする認識は広まっている。しかし、本調査の結果、自閉症高群の母親は低群の母親と比較すると、母性意識が否定的で子どもに対するアタッチメントが弱く、子育てで必要なサポートを周りから受けていると感じていないことが示された。今回の調査は、軽度の自閉症を診断するツールの 1 つである 14 項目（大六, 2006）を用いた。そのため、正式に自閉症スペクトラム症の診断を受けていない子どもの母親が多かったと予測される。本調査の結果から、正式に診断されていなくとも気軽に保護者が子どもの発達について相談できる機会を設けることで、養育者のストレスを緩和し、親子関係の質を高くすることが望ましいことが示された。

課題と今後の展望

この研究は新型コロナ禍の影響を受け（2020 年 12 月～2021 年 6 月）、オンラインで調査が実施された。また、自閉症と正式に診断された子どもの母親ではなく、ASQ 得点がカットオフ以上の自閉傾向が高い子どもの母親を比較対象としたアナログ研究である。また、母親の子どもに対するアタッチメントを予測するモデルにおいて、子ども側の要因では共感性のみ扱った。しかし、低共感による他者との感情経験の共有の欠如だけでなく、自閉症児が先天的に持つ知覚過敏も親子関係の質を損なうことがわかっている（野井, 2021）。今後の研究では、正式に自閉症スペクトラム症の診断を受けた子どもの母親を対象とし、共感性だけでなく、自閉症に特有のその他要因を検討することが望ましい。

また、この研究はアナログ研究という限界だけでなく、自閉症スペクトラム症はその他の発達障害と併発するという点を考慮に入れていなかった。自閉症スペクトラム症と診断された子どもの 8 割上は、注意欠如多動性、学習障害や知的発達症とも診断される（Saito et al., 2020）。今後の研究では、自閉症スペクトラム症の多様性も考慮に入れて、母子関係の質に影響する要因を調べる必要がある。

母親の子どもに対するアタッチメント：自閉症スペクトラム症特性の高い子ども，低い子どもを持つと養育者の比較を通して

さらに，今回の調査では，母親の子どもに対するアタッチメントを母子関係の質の指標とした。しかし，母子関係では，子どもが相互に働きかけを行い，同じ経験を共有することで絆が深まる (Nagy, 2008)。そのため，母親側だけでなく，子ども側の反応も考慮して，面接や観察法を用いて母子のアタッチメントを量的かつ質的に評価するべきである。

自閉症スペクトラム症に関する研究知見が増える一方，自閉症に関する社会の理解は乏しい。自閉症スペクトラム症の子どもは低共感で他者に無関心というイメージが強い。いま私たちに求められていることは，自閉症とともに生きる人びとの世界を想像して共感し，理解を深めることと言えよう。発達に課題のある子ども，その養育者の双方に寄り添ったサポートを通して，すべての人が平等に参加することのできる社会の実現につながることを期待される。

引用文献

- Bowlby, J. (1979). The Bowlby-Ainsworth attachment theory. *Behavioral & Brain Sciences*, 2, 637–638.
- 大六 一志・長崎 勤・園山 繁樹・宮本 信也・野呂 文行・多田 昌代 (2006). 5歳児軽度発達障害スクリーニング質問表作成のための予備的研究 心身障害学研究, 30, 11–23.
- Davis, N. O., & Carter, A. S. (2008). Parenting stress in mothers and fathers of toddlers with autism spectrum disorders: Associations with child characteristics. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 38(7), 1278–1291.
- Glocker, M. L., Langleben, D. D., Ruparel, K., Loughhead, J. W., Gur, R. C., & Sachser, N. (2009). Baby schema in infant induces cuteness perception and motivation for caretaking in adults. *Ethology*, 115, 257–263.
- Hickey, E. J., Hartley, S. L., & Papp, L. (2020). Psychological Well-Being and Parent-Child Relationship Quality in Relation to Child Autism: An Actor-Partner Modeling Approach. *Family Process*, 59, 636–650.
- Hoffman, M. L. (1987). The contribution of empathy to justice and moral judgment. In Eisenberg, N., and Strayer, J. (Eds.), *Empathy and its development*, University of Cambridge Press, Cambridge, U.K.
- 岩佐 一・権藤 恭介・増井 幸恵, 他. (2007). 日本語版「ソーシャルサポート尺度」の信頼性ならびに妥当性：中高者を対象とした検討 厚生学雑誌, 54(6), 26–33.
- Karst, J. S., & van Hecke, A. V. (2012). Parent and family impact of autism spectrum disorders: A review and proposed model for intervention evaluation. *Clinical Child and Family Psychology Review*, 15, 247–277.
- Nagy, E. (2008). Innate intersubjectivity. Newborns' sensitivity to communication disturbance. *Developmental Psychology*, 44, 1779–1784.
- 中島 登美子 (2001). 母親の愛着尺度日本語版の信頼性・妥当性の検討 日本看護科学学会誌, 21(1),

1–8.

Nittono, H., Fukushima, M., Yano, A., & Moriya, H. (2012). The power of kawaii: Viewing cute images promotes a careful behavior and narrows attentional focus. *PLoS One*, *7*, e46362.

野井 未加 (2021). 自閉症スペクトラム症障害児の関係性をはぐくむ支援 西南女学院大学紀要, *25*, 55–65.

大日向 雅美 (1988). :母性の研究 川島書店

Rieffe, C., Ketelaar, L., & Wiefferink, C. H. (2010). Assessing empathy in young children: Construction and validation of an Empathy Questionnaire (EmQue). *Personality and Individual Differences*, *49*, 362–367.

Saito, M., Hirota, T., Sakamoto, Y., Adachi, M., Takahashi, M., Osato-Kaneda, A., et al. (2020). Prevalence and cumulative incidence of autism spectrum disorders and the patterns of co-occurring neurodevelopmental disorders in a total population sample of 5-year-old children. *Molecular Autism*, *11*, 35.

Smith, A. (2009). The empathy imbalance hypothesis of Autism: A theoretical approach to cognitive and emotional empathy in autistic development. *The Psychological Record*, *59*, 489–510.

杉山 登志郎 (2011). 発達障害のいま 講談社現代新書

Takamatsu, R. (2020). Measuring affective responses to cuteness and Japanese *kawaii* as a multidimensional construct. *Current Psychology*, *39*, 1362–1374.

Takamatsu, R., Tsou, Y-T., Kusumi, T., & Rieffe, C. (2021). The Japanese Empathy Questionnaire (EmQue) for preschool children: Psychometric properties and measurement invariance across gender. *International Journal of Behavioral Development*, *45*, 453–462.

登張 真稲 (2003). 青年期の共感性の発達：多次元的視点による検討 発達心理学研究, *14*(2), 136–148.

World Health Organization (2020). Child maltreatment. World Health Organization. Retrieved from <https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/child-maltreatment> (2021年11月4日)

湯沢 純子・渡邊 佳明・松永 しのぶ (2007). 自閉症児を育てる母親の子育てに対する気持ちとソーシャルサポートとの関連 昭和女子大学生生活心理研究所紀要, *10*, 119–129.